

E. ショーソンの歌曲

— 4つのメロディー、作品第8、第1～第4番 —

下 山 進

Mélodies de Ernest CHAUSSON

Quatre Mélodies Op.8, no.1-4

Susumu SHIMOYAMA

近代フランス音楽はグノー（1818-1893）、フランク（1822-1890）、サン＝サーンス（1835-1921）、ビゼー（1838-1875）、マスネー（1842-1912）、フォーレ（1845-1924）、デュパルク（1848-1933）などが活躍した。彼らの活躍のなかにあつて、ショーソン（1855-1899）の音楽活動は20年程であり、その間に音楽多分野にわたり作品を残したが、歌曲においては40数曲ある。

本論では、ショーソンの作品第8番の4曲（ブショール詩）—第1.「ノクターン」（1886年作）、第2.「むかしの恋人」（1882-1890年作）、第3.「悲しき春」（1883-1888年作）、第4.「私たちの思い出」（1888年作）について、リズム・旋律・和声・形式などを分析し、音楽と詩との融合、彼独自の歌曲 *Mélodie* の特徴を考察する。

1. はじめに

ショーソン（CHAUSON Amédée Ernest 1855-1899）は1877年に法学博士取得後、1879年からマスネー（Massenet J. E. F. 1842-1912）に師事しパリ音楽院の聴講生となり、1880年に正式に入学する。間もなくC. フランク（FRANK C. A. 1822-1890）に師事するが、1881年に退学する。

ショーソンの作曲活動は3期に分けられ、第1期は「リラの花」*Lilas*（作品番号なし、声楽とピアノ曲、ブショール詩、未刊、1877年）から「3つのモテット」*Trois Motets*（作品第12番、チェロ、バイオリン、オルガンおよび混声4部合唱曲、ルアール＝ルロル社版、1886年、但し第1曲「アヴェ・マリア」*Ave Maria*と第3曲「アヴェ・マリア・ステラ」*Ave Maria Stella*、未刊）、第2期は「隊商」*La Caravane*（作品第14番、声楽とピアノ、T. ゴーチェ詩、アメル社版、1887年）から「聖セシリアの伝説」*La Légende de Sainte Cécile*（作品第22番、M. ブショール台本、劇のための独唱・女声合唱と小オーケストラ曲、ジュベール社版、1891年）、第3期は「憂愁の室」*Serre d'Ennui*（作品第24番第2曲—声楽とピアノのた

めの5曲、第3曲「倦怠」*Lassitude*、1893年、但し第1曲「温室」*Serre Chaude*と第4曲「疲れた獣」*Fauve las*は1896年、第5曲「祈祷」*Oraison*、メーテルリンク詩、1895年、ルアール＝ルロル社版）から「交響曲、第2番」*Symphonie No. 2*（草稿、未刊、1899年）である。

作品分野は劇場音楽（抒情劇、オペラ、付随音楽）、器楽曲（交響曲、ピアノ曲、弦楽重奏曲）、および声楽曲（歌曲、合唱曲、教会音楽曲）に及ぶ。そのうち歌曲作品は「リラの花」（声楽とピアノ曲、ブショール詩、1877年）から、「終わりのなき歌」*Chanson Perpétuelle*（シャルル・クロ詩、1898年）まで40数曲を残す。

代表作品は器楽曲として作品第21番「ピアノ、バイオリンと弦楽四重奏の協奏曲、ニ長調」*Concert en ré majeur pour piano, violon et quatuor à cordes*（1889-1891年）、作品第25番「詩曲」*le Poème pour violon et orchestre*（バイオリンとオーケストラのための、1896年）、作品第35番「弦楽四重奏曲、ハ短調」*Quatuor à Cordes en ut mineur*（1898-1899年）がある。一方音楽活動として、ショーソンはダンディとともに1886年に国民音楽協会 *La Société de Musique*（サン＝サーンスにより1871年に設立されフランクに受け継がれる）の書記になり、フランク、フォーレ、デュパルク、ドビュッシーなどとともにフランス音楽の普及とともに演奏をする。さらに他芸術分野において詩人（マラルメ、レニエ、ツルゲーネフなど）、画家（イザイエ、シャヴァンヌなど）との親交も深め、彼らから多くの影響を受ける。

本論では、ショーソンの作曲活動における第1期（旋律的、形成期、1882-1886年）から第2期（転調、循環形式、抒情的表現期、1866-1894年）に跨る、作品第8番—第1.「ノクターン」、第2.「むかしの恋人」、第3.「悲しき春」、第4.「私たちの思い出」について、リズム・旋律・和声・形式などを分析し、音楽と詩との融合、彼独自の歌曲*Mélodie*の特徴を考察する。あわせて歌唱表現指導の留意点についても述べる。

2. 作品第8番における分析

本作品、第8番第1曲から第4曲はブショール（Bouchor M. 1855-1929、高踏派の外縁に位置する伝統主義的・宗教的詩人および劇作家であるとともに、諸国の民謡を収録・刊行、さらに優れた文学作品を読みやすい形で普及した）の詩に作曲されている。なおショーソンは彼の詩に最も多く作曲し、15曲を残している。

1) 「ノクターン」 *Nocturne* ブショール詩 1886年作

歌曲に用いられた詩の構成は2詩節、1詩節は6詩句、詩句は12音節2つと8音節1つの2組、脚韻はf（女性韻）2・m（男性韻）1とf 2・m 1である。

E. ショーソンの歌曲

詩 1

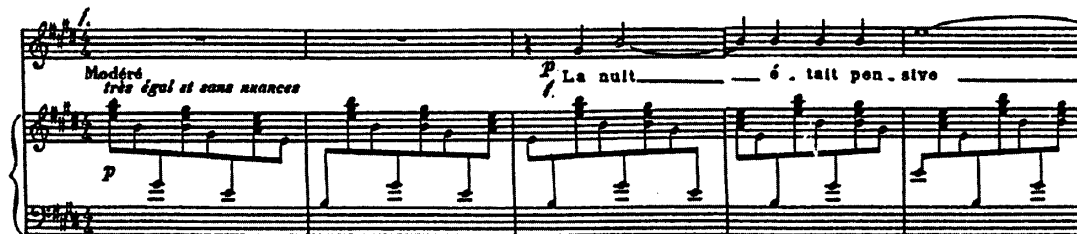
La nuit était pensive et ténébreuse; à peine	夜はもの悲しく暗い、微かに
Quelque épingles d'or scintillaient dans l'ébène	幾つかの金のピンが黒檀色に煌く
De ses grands cheveux déroulés,	解いた大きな髪の毛は、
Qui, sur nous, sur la mer lointaine et sur la terre	それは、僕らに、遠い海と大地に
Ensevelie en un sommeil plein de mystère,	神秘に満ちた眠りに埋葬する、
Secouaient des parfums ailés.	翼のある香でゆらす。

第2詩節以下省略

曲構成は、55小節、速度 *Modéré*、4 / 4 拍子、ホ長調、A B 2 部形式である。声域は中央 mi から 1 オクターブ上の sol # である。

曲は終始、ヘミオラ的な 8 分音符 3 つのリズムの分散和音からなる。A 部、第 1 詩句（第 3 小節から第 8 小節、第 1・2 小節と第 9 小節の歌部は休符）は伴奏部の下降型和音 Mi - La - Mi と結合反復し開放した S 進行上に、伸びやかに歌う（譜 1）。

譜 1

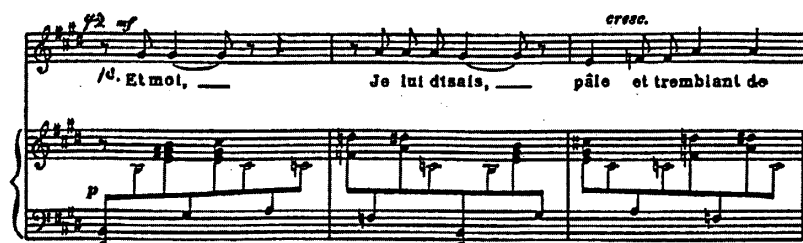


同詩句第 11 音節から第 3 詩句（第 10 小節から第 15 小節）は Solaug/si（準固有和音） - Do7/si b（反復） - Mi - La - Mi 上に、第 4 詩句から第 6 詩（第 16 小節から第 27 小節）は Mi - Sol # m - Ré # /sol # - Sol #（Ⅲの準固有和音） - Do # /sol # - Do # m（平行短調、一時転調） - Lam - Lam/fa # - Sol # /si - Si7 - Mi と変化音を精巧に結合し原調に戻る。さらに接続句（同第 27 小節から第 31 小節、第 27 小節から第 31 小節の歌部は休符）は原調の主和音に戻し反復する。

B 部、第 7 詩句から第 9 詩句（第 32 小節から第 40 小節）は Mim - Sim7 - Do7/si b - Mim - Fa # m7-5（反復） - Sol # dim7/si - Mi /si - Sol # dim7/si - Rém7 - Sim7-5/ré - Solaug/si と連結し調性を曖昧にし、第 10 詩句から第 12 詩句（第 42 小節から第 55 小節、第 41 小節と第 54・第 55 小節の歌部は休符）は Mi - Do # m - Lam - Rém7（反復） - Mi（譜 2）、Rém7 - Ré b - La/do # - Fam7-5 - Sol - Solaug/si - Si7 - Mi と D 進行し原

調に明確に戻る。歌部は第5音で終止するが、伴奏部は主和音の下降ののち、アルペジオ音型で完全終止する。

譜2



歌唱表現としては、中位の速度の指示があるので決して重くならないこと。終始、伴奏部がヘミオラの音型を奏するので懐古するように同音型の揺れに合わせること。

A部はホ長調であり、前舌非円唇母音[a][e][ɛ][i]が多く用いられているので、発音を十分に生かし決して奥舌にならないこと。また第5小節のmiへの完全4度跳躍および第19小節の最高音sol#は軽やかにpで発声すること。

B部は第32小節から第55小節が同主短調、声域が5度内の半音あるいは全音順次進行なので、決して暗くならず滑らかに歌うこと。なお第46小節（第11詩句第3音節から第4音節「死にたい」mourrions）はfaへの完全4度跳躍なのでコントロールされたcresc.で、さらに第12詩句第4音節から第8音節は第5音が同音なので揺れずに安定したpの響きで発声すること。

2) 「むかしの恋人」 *Amour d'Antan* ブショール詩 1882-1890年作

歌曲に用いられた詩の構成は、3詩節、1詩節は4詩句、詩句は10音節、脚韻はm f m fの交互韻である。

詩2

Mon amour d'Antan, vous souvenez-vous?	むかしの恋人よ、憶えていますか?
Nos cœurs ont fleuri tout comme deux roses	僕らの心は二つのバラのように咲いた
Au vent printanier des baisers si doux,	とても優しい口づけの春風に
Vous souvenez-vous de ces vieilles chose?	憶えていますか? あの頃のことを
Voyez-vous toujours en vos songes d'or.	いつも貴女の黄金の歌に
Les horizons bleus, la mer soleilleuse	青い水平線、日差し一杯の海は
Qui baisant vos pieds lentement s'en dort?	ゆっくりと貴女の足元に口づけまどろむ

E. ショーソンの歌曲

En vos songes d'or peut-être oublieuse?

貴女の黄金の歌を忘れていませんか？

第3詩節以下省略

曲構成は、76小節、速度 *Pas trop lent*、3/8 - 4/8 拍子、ホ短調 - 嬰へ長調、ABC 3部形式であるが、A部の旋律およびリズムを断片的に用い循環形式、すなわちメロディー様式と言える。声域は中央 *mi* から1オクターブ上の *f* # である。

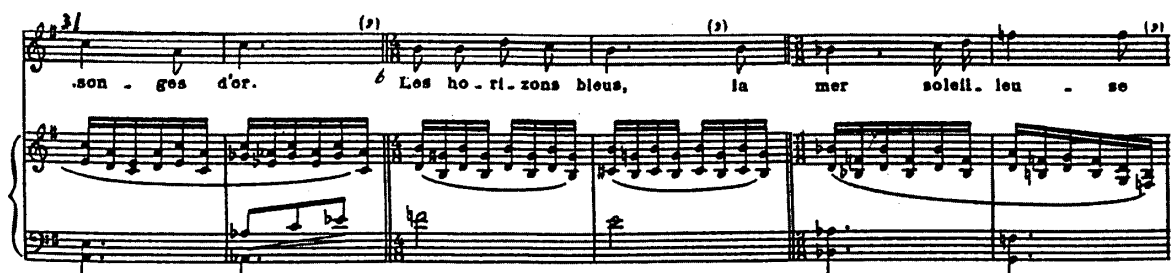
A部、第1詩句（第1小節から第5小節、第1・第2小節の歌部は休符）はホ短調の属音 *si* の保続音に *Mi*（根音省略） - *Mim* - *Si* - *Do* # 7 と旋律を半音階的に下降させる間に、歌部は完全5度の声域内で静かに問いかけるように第5音 *si* に戻る（譜3）。

譜 3



接続句（第6小節から第8小節、歌部は休符）は伴奏中声部が半音階的上行を *Mim* - *Sol* / *si* - *Solaug* - *Mim*、第2詩句第2音節から第3詩句（第8小節から第17小節、第17小節の歌部は休符）は *Solm* / *ré* - *La* # *dim7* / *do* # - *Sim* / *ré* - *Sim7* - *Réaug* / *mi* - *Fa* # / *mi* - *Solm* - *Solm* # 7-5 - *Mi7* / *sol* # - *Rém* / *fa* - *Sim7* - 5 / *fa* # - *Si7* と多彩な和音連結をし、伴奏高声部は緩やかに揺れるリズムで下降表現する。第4詩句（第18小節から第23小節、第18小節、歌部休符）は伴奏部に第1小節から第4小節を再現させ、第22小節は同部高音に分散和音16分音符を用い、*Do9*で突如の半終止をする。

譜 4



B部、第23小節から第26小節（間奏句的）はMim7-5/sol - Solm7/fa - Mim7 - Si \flat 7/ré - Mim7-5/fa、第5詩句（第27小節から32小節）はMi \flat 7 - Do - Lam - La \flat 7、第6・第7詩句（第33小節から第41小節、第33・第34小節は4 / 8拍子）はSol # dim7/fa-Do # m7-5/mi-Si \flat 7-Sol7-Fa # 7- Rém/fa-Lam- Si # dim7/ré #と連結する（譜4）。さらに接続句的な第42小節から第44小節（歌部は休符）は同和音上に旋律を半音階的で用い「まどろむ」s'en dort? を暗示させる。

C部、第8詩句（第45小節から第53小節、第45小節の歌部は休符）はlaを保続音として4分音符と8分音符のリズムで拡張しSi # dim7/ré # - La7/mi - Rém/fa - Ré # dim7/fa # - Fa # m7-5/mi - Ré # dim7/ré # - Mimと連結する（譜5）。

譜5

第9詩句から第11詩句（第54小節から第66小節）は伴奏低音部に付点4分音符リズムを半音階的な下降旋律で奏させMim - Si7/ ré # - Mim/ré - Sol/ ré - Do # m7-5 - Dom - Lam7-5 - Mim/si - Fa # m7-5/la - Mim/sol - Lam/do - Fam # m7-5/do - Lam/do - Si7、第12詩句（第67小節から第76小節、第74小節から第76小節の歌部は休符）は付点4分音符の拡張リズムでSol # m7-5/si - Sol/si - Do-Lam7-Mim/siとS進行で祈りを暗示させ、第5音で不完全終止する。

歌唱表現としては、A部は第1詩句第1音節から第5音節Mon amour d'antanの鼻母音[ã] [5]を柔らかく語りかけ、同句第6音節から第10音節はun peu retenuの指示どおり、問いかけるように表現すること。

B部は第6詩句第8音節から第10音節soleilleuse[sɔlejɔz]および第8詩句第6音節から第9音節oubliu [bliju]の前舌非円唇半子音および前舌円唇口むろ母音を正確に発音し、un peu plus fortの指示どおり、増4度の跳躍を経て最高音fa #へ向かって緊張感を持続させて表現する。同句第10音節は完全5度下降を口むろ無声狭子音[z]を軽やかに歌うこと。

C部の第10詩句から第11詩句「花束」Bouquetはfa #への増4度音程跳躍、最も甘美な旋律なので呼吸を支え軟口蓋から鼻空をよく開放し、augmentant un peu cresc.の指示どお

E. ショーソンの歌曲

り言葉を想像して表現すること。第12詩句は5度音程の声域なので *très doux* および *pp* の指示から祈るように表現すること。

3) 「悲しき春」 *Printemps Triste*、ブショール詩、1883-1888 年作

歌曲に用いられた詩の構成は4詩節、1詩節は4詩句、1詩句は10音節、脚韻は *m f f m* の抱擁韻である。

詩 3

Nos sentiers aimés s'en vont reflleurir	僕たちの愛した小道は再び花咲いた
Et mon cœur brisé ne peut pas renaître.	傷ついた僕の心は蘇りはしない。
Aussi chaque soir me voit accourir	同じ夕べは僕を駆りたてる
Et longuement pleurer sous ta fenêtre,	長々と嘆く君の窓辺に、
Ta fenêtre vide où ne brille plus	君の居ない窓辺はもう輝かない
Ta tête charmente et ton doux sourire;	君の魅惑的な頭と優しい微笑み
Et comme je pense à nos jours perdus	僕たちの失った日々を思うとき
Je me lamente, et je ne sais que dire.	僕は嘆き、言うこともない。

第3詩節以下省略

曲構成は、42小節、速度 *Très lent*、4 / 4 - 9 / 8 - 4 / 4（伴奏高音部は12 / 8）拍子、ハ短調、A B A' C の循環形式すなわちメロディー様式である。声域は中央 *mi* から1オクターブ上の *sol* である。

A部は16分音符のアルペジオ音型で抒情的なリズムを刻む。第1詩句から第4詩句（第1小節から第13小節、第1小節から第4小節の歌部は休符）は *Dom - Dom7-5 - Sidim7/do - Midim7/do - Fam - Fam7-5 - Rédim7 - Ré b 7 - Rém7-5 - Si b m/ré b - Sim7-5 - Midim7/fa - Ladim7/fa - Si b m - Si b m 7-5 - Solm7-5 - Do - Ré b 7/do b - La - Rém - Mi7/ré - Solm/ ré* と結合する（譜6）。

譜 6

B部、拍子は9/8に変更し8分音符リズムで和音を刻み、第5詩句（第14・第15小節）はSi b m - Midim7/sol - Sol b - Si bと連結する（譜7）。

譜 7

第6・第7詩句（第16小節から第20小節）は低音部を半音順次上行させ高音部をゼクエンスさせ、Si b m7/la b - Midim7/sol - La b 7/sol b - Fa7 - Si b m - Ré b /si - Fa/do - Ré b 7 - Si b dim7/ré - Fa # dim7/mi、第8詩句（第21小節から第25小節、第24・第25小節の歌部は休符）はさらに低音部を半音順次下降音型でゼクエンスを変え、さらに中音部を順次下降させ Sim7-5/ ré - Rém - Sim7-5/do # - Do # dim/ - Fam/do - Do - Si b m7-5 - Sidim7と連結する（譜8）。

譜 8

A'部、第9詩句から第14詩句（第26小節から第34小節）は旋律部および伴奏部低音を4/4、同高音部を12/8と指示しリズムを細かく刻む。A部で用いた和音を3小節反復再現したのち、Midim7/fa - Ladim7/fa - Solm7-5 - Lam7-5 - Mi b 7/la - Dom7-5 - Sol

E. ショーソンの歌曲

♭ 7/do - Ré # m7-5 - Do # m7-5 - Mim7-5 - Do # dim7/mi-do # - Do7 と結合する。

Coda 部、同中音部の拍子を 4 / 4 に戻し、第 34 小節から第 36 小節（歌部は休符）は高音部を半音順次下降のゼクエンス断片、分散和音 16 分音符 6 連のジグザグ音型リズムで刻み、Do # m7-5 - Do # dim7 - Lam/mi - Rém7-5/fa - Sol7 - Rém7-5/la-ré - Ré ♭ 7 - Sidim7、第 15・第 16 詩句（第 38 小節から第 42 小節）は伴奏低音部に保続音の属音 do を用い、16 分音符下降アルペジオ音型で La ♭ /do - Dom - Dom7-5 - Ladim7/do - Fam/do - Ré ♭ /do - Sol7/do - Dom と連結し、旋律第 3 音と伴奏高音部第 5 音で不完全終止する。

歌唱表現としては、Très lent の短調であり、また伴奏部和音が m、dim、m7-5 や dim7 を駆使しているが、決して暗くならないように表現すること。

A 部は抒情的な 16 分音符のアルペジオ音型上の付点 4 分音符と 8 分音符の揺れるリズムなのでそれをよく感じて、声を決して暗く重くしないこと。

B 部は 8 分音符リズムで刻む和音にのって決して急がないこと。また第 5 詩句の短 9 度、第 6 詩句への完全 8 度、同句 7 音節から第 8 音節の短 6 度および第 7 詩句の下降完全 8 度音程は正確にとること。

A' 部は伴奏部が 12/8 の動きのあるリズムなので、第 12 詩句のシラビック唱 16 分音符（第 28 小節から第 30 小節）は子音の発音を明確にすること。第 33 小節の最高音 sol は 4 拍の長音であり音量 f なので息をしっかりと支えること。

C 部は流れるような下降の 16 分音符アルペジオ音型を感じて重くならないように表現すること。また完全 4・完全 8 度の跳躍は正確な音程で発声すること。

4)「私たちの思い出」*Nos Souvenirs*、ブショール詩、1888 年作

歌曲に用いられた詩の構成は 5 詩節。第 1 詩節は 4 詩句、1 詩句は 8 音節、脚韻は f m f m の交互韻である。

詩 4

Nos souvenirs, toutes ces choses

Qu'à tous les vents nous effeuillons

Comme les petals des roses

Où des ailes de papillons,

Ont d'une joie évanouie

Gardé tout parfum secret,

私たちの思いで、全てのこと

風に私たちは打ち砕かれ

バラの花びらのように

蝶々の羽の

消えた喜び

秘密の香を守り

Et c'est une chose inouïe
Comme le passé reparit.

そして聞いたことのないもの
過去が再び現れるごとく。

第3節以下省略

曲構成は、87小節、速度 *Sans lenteur*、2 / 4 拍子、ハ短調、A B C D と Coda 部の循環形式すなわちメロディー形式である。声域は中央 ré # から 1 オクターブ上の mi である。

A 部は低音部高音部とも弧を描く 8 分音符の分散和音型を用いている。第 1 詩句から第 4 詩句（第 1 小節から第 13 小節）は Do # m – Si # dim7/do # – Rédim7 – Sol # dim7/fa – Ré # m/fa # – Ré # /fa × – Sol # m – Do # m/sol # – Ré # /sol # – Mi/ sol # – Ré # /fa × – Fa # と連結する（譜 9）。第 5 詩句（第 14 小節から第 16 小節）は La # m/mi # – Fa # 7 – La # m/mi #、A 部後半の第 6 詩句から第 8 詩句（第 17 小節から第 27 小節）は 8 分音符分の下降型散和音 Ré # m7-5 – Ré # dim – Fa × /sol # – Si # dim7/ sol # – La/sol # – Sol # dim7 – La7/sol # – Si # 7 – Do # m と連結し平行短調に転調する。

譜 9



B 部、第 9 詩句から第 11 詩句（第 30 小節から第 46 小節、第 27 小節から第 29 小節および第 44・第 45 小節の歌部は休符）は低音部の弧を描く 8 分音符上に、高音部が 8 分音符の波型 3 連符で Do # m – Si # dim 7/do # – Si # dim 7/ré – Do × dim 7/mi # – Ré # m/fa # – Ré # m/fa × – Sol # m – Do # m/sol # – Ré # /sol # – Sol # m – Ré # /fa × – Fa # m – La # m/mi # – do # – La # dim 7/do # – do と連結する。

C 部、第 13 詩句から第 16 詩句第 2 音節（第 46 小節から第 54 小節、第 46・第 47 小節の歌部は休符）は高音部が弧を描く 8 分音符の 3 連符分散和音、Mi/si – Fa7/la – Mi/si – Fa/si – Si 7-5 – Mi – Do # m/sol # – Ré m7/la – Fa7(ré # =mi b) – Do # m/mi – Siaug/ré # – Sim/ré – Sol7 – Fa # m7-5/la – Do7/la # (la # =si b) と連結する（譜 10）。

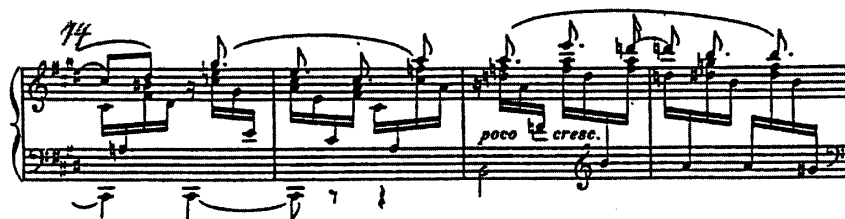
譜 10



D部、第16詩句第8音節から第20詩句（第57小節から第74小節）は低音部に2分音符、高音部に弧を描く8分音符でDo # /sol # - Sol # 9 - Sol # dim - Do # 7/si - La 7 - Fa # 7 - Ré # m7-5 - La # dim/sol - Sol # 9 - Sol # dim7 - Sol # 7と結合し、A部を変形再現する。

Coda部、第73小節から第87小節（歌部は休符）は伴奏部高音に付点8分音符の旋律断片でシンコペーションと16分音符下降型分散和音とを用い、主音do #の保続音上にDo # - Fa # m - Si # dim7 - Do # m - Fa # m7 - Faaug - Sim7-5 - Solaug - Si7 - Sol # m7 - Sim - Do # 7 - Sol # m7-5 - Sol # 7 - Do # - Fa # m - La - Do # m/do # - sol # - do #と低音部の5度進行上に、S機能で連結させながら3拍のホ長調主和音上に高音部第5音を用い不完全終止し、調性を抒情的に暈かしノスタルジーを表現する（譜11）。

譜 11



歌唱表現としては、各句の韻を含め長音符は声が揺れないように発声すること。

A部、第3詩句への短6度および第6詩句音節から第8音節の完全5度miへの跳躍「秘めた」secretは呼気を強めず軟口蓋を十分引き上げ鼻空に息を回し、声を共鳴させること。

B部は中声域が多いので胸声音にファルセットを混ぜ、響きを柔らかくつなげること。また第11詩句第8音節後の完全4度下降ré # - la #および第12詩句への減5度上行音程la # - miは正確にとること。

C部の第14詩句から第15詩句はナイチンゲールの鳴き声を暗喩させる8分音符3連符連続の子音を丁寧に、半音および順次進行音程を正確にとること。また第16詩句第4音節への短6度音程下降はf韻なので柔らかく発声すること。

D部の第18詩句への完全4度音程は正確に、さらに第17詩句第3音節、第18詩句第8音節 la、第19詩句第8音節 ré および第20詩句第8音節 sol # 第5音の各長音符は声が揺れないように息の支えを柔軟にすること。

2. おわりに

上記Ⅱの分析から、ショーソンの歌曲は第1期後半から第2期にかけてすでに循環形式、すなわちメロディー様式で作曲されている。リズムは3連音符やシンコペーションも用いているが拍節を基本にしている。旋律は変化音を巧みに用い半音階的を用い、陰影に富んでいる。和声は変化音を含む準固有和音、7-5、7m-5、dim.、dim7、時には aug.、7や9の和音などを連結させ解決を遅らせ、さらに巧みな転回型を用い和音機能を暈かし多彩である。一方、曲の終止は開放的なS進行を用いているが、しかし要所では低音部の5度進行、和音機能の強い原形およびD進行を用い、調性を明確にしている。

正しくショーソンの歌曲 *Mélodie* は彼独自の作曲技法を用い、音と詩とを巧みに融合させた、繊細で音響的に富んだ抒情的な作品である。

参考文献

- ・ 譜1から譜11、*CHAUSSON, 20 SONGS*, Selected and edited by SERIUS KAGEN, INTERNATIONAL MUSIC C, No.1130
- ・ 「フランス歌曲集」、古沢淑子解説、堀内敬三編、声楽篇第20巻、音楽之友社、昭和31年
- ・ ERNEST CHAUSSON, *Mélodies, Le recueil des 14 mélodies*, J.HAMELLE, J.1960 H
- ・ Ralph Scott Grover, *ERNEST CHAUSSON, The Man and His Music*, University Presses, Inc. 1980
- ・ ジャン・ガロワ、「ショーソン」、西村六郎訳、音楽之友社、昭和49年
- ・ 「ショーソン」、遠山一行・海老沢敏編、ラールス世界音楽人名辞典、福武書店、1989
- ・ 「ショーソン」、浅香淳・大和明編、標準音楽辞典、音楽之友社、1991
- ・ 「フランス文学辞典」、安部良雄執筆、日本フランス語フランス文学学会編、白水社、1974
- ・ CH. ケックラン、「和声の変遷」、清水脩訳、音楽之友社、昭和56年
- ・ Jean-Marc Warszawski, *Chausson Ernest*, Références, Musicologie. org (association loi 1901), <http://musicologie.free.fr/Biographies>, 2003.8
- ・ 「フランス歌曲の作曲家たち」、<http://www.geocities.co.jp/Berkeley>, 2002.7.
- ・ Andrée Esposito, *CHAUSSON*, EMI, FRANCE, 1968
- ・ CHRISTINE SCHÄFER・IRWIN GAGE, *DEBUSSY・CHAUSSON, Mélodies*, Deutsche Grammophon GmbH, Hambg, 2000
- ・ ジェラルド・スゼー、「ショーソン」、東芝EMI、TOCE-9843